

第2回 人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座 実施報告

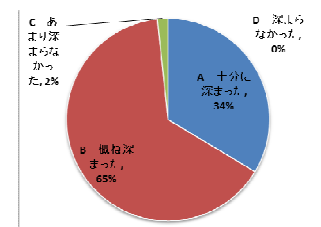
- 1 日時 平成27年12月1日(火) 13:00~16:00
- 2 会場 県立教育研究所 大講座室 (磯城郡田原本町秦庄22-1)
- 3 参加者 191人
(幼稚園7人、小学校91人、中学校57人、県立学校3人、コーディネーター25人
その他8人)
- 4 内容 13:00~13:05 開会挨拶
13:05~13:20 セミナー「地域と共にある学校づくり」
13:20~14:20 講演「地域と共にある学校づくり」のさらなる定着のために
奈良県学校コミュニティ・アドバイザー
びわこ学院大学 准教授 高木 和久
14:30~15:50 パネルディスカッション
15:50~16:00 まとめ

5 講演概要

① 「地域と共にある学校づくり」が目指すものは…新しい時代の教育や地域創生の実現

地域は学校のお手伝いさんや応援ではなく、パートナーである。わかりやすい言葉で目標をつくり明確にして、学校や地域の願いに沿った子どもを育てていくこと、これが大切である。

「地域と共にある学校づくり」についての知識、理解は深まったか。



② 子どもの課題に沿った取組とは

事業ありきでなく、学校と地域が具体的な子どもの教育課題を同じ目の高さで「熟議」し課題を明確にする。そして、どんな子どもを育てるのか「目的・目標」を明確にして、具体的方策を決定する。その際、P(企画)・D(実践)・C(評価)・A(改善)を大切にする必要がある。

③ 管理職のマネジメント力と教職員の意識向上に向けて

学校や地域がどのようなプロデュースするのか、3~5年を見通して、人が変わってもぶれないようにして欲しい。

④ 取組を具現化するためのシステムの在り方とは

取組を増やすことは必ずしもよいことではない。「スクラップ・アンド・ビルド」が大切。子どもの課題に沿った活動であるかを考え、駄目なら2年でやめてみることも大切だ。

6 パネルディスカッション

◇大和高田市立陵西小学校 教諭 松田 敦志

- ・学校体制を築くためには、職員がビジョンを共有することが必要。
- ・学校体制を構築し、教員の意識改革がすすんで、各コミュニティ部が地域と向き合うことができた。



◇富雄中学校区地域教育協議会 総合コーディネーター 新谷 明美

- ・地域との交流により顔の見える関係になり、地域の学校に対する見方が変わってきている。あいさつを交わす顔の見える関係は、地域を学校の応援団に変えている。

◇奈良県学校コミュニティ・コーディネーター 有田 佐

- ・県下でも地域、子どもの実態は様々であり、良い取組が多く実践されている。組織、スタイル、連携の仕方はそれぞれの形があってよい。

◇びわこ学院大学 准教授 高木 和久

- ・管理職(リーダー)がマネジメントのリーダーシップをとり、コーディネーターの資質を活用し、地域も保護者も外部の方も関係する熟議が必要。

7 感想

- ・たくさんのボランティアの方に来ていただいておりますが、行事としてとらえるのではなく、子どもたちの何を育てるためにこの活動をしているのか・・・という事を職員できちんと話し合い、思いをもって活動していきたいと思いました。
- ・ボランティアだけが一方的に支援するのではなく、子どもたちと一緒に奉仕活動をするような活動を取り入れたい。

講座の内容が今後の教育活動に活用できるか。

